

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 田中良平 先生

一般社団法人日本鉄鋼協会 名誉会員、東京工業大学名誉教授、田中良平先生は、平成 27 年 11 月 17 日ご逝去されました。享年 89 歳。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

先生は、昭和 24 年 3 月東京工業大学金属加工コースをご卒業。同年、同大学研究科特別研究生を経て、29 年 10 月に同大学理工学部助手に着任され、昭和 31 年 11 月同大学理工学部助教授に、昭和 40 年 4 月同大学理工学部教授に昇任され、金属工学科鉄鋼材料学講座を担当されました。一方、昭和 57 年 4 月教務部長、昭和 59 年 4 月同大学総合理工学研究科長に就任され大学運営にも貢献され、昭和 61 年 3 月同大学を定年退職、東京工業大学名誉教授の称号を授与されました。同年 4 月横浜国立大学教授に任ぜられ、平成 3 年 3 月退官されましたが、引き続いて(株)超高温材料研究センターで技術顧問を務められました。

この間、先生は耐熱鋼と耐熱合金の組織と強度に関する先駆的研究を一貫して進められ、大学にあっては、実験データに基づく新たな知見に対し、熱心かつ厳しい指導を続けられ、逞しく、創造力溢れる人材を育成され、その多くが鉄鋼界で活躍しています。一方で、日本学術振興会耐熱金属材料第 123 委員会の委員長を昭和 49 年から平成 19 年まで務められ、我が国の耐熱材料研究の基礎を構築するとともに、この分野のリーダーとして学術及び技術水準の向上に努められ、多くの研究者及び技術者の育成にも尽力されました。

先生の主要な研究は以下の通りです。

- (1) 世界で初めて本格的な高圧窒素中溶解を試み、高濃度窒素を含有するオーステナイト鋼を溶製し、窒素の γ 素地への固溶が高温での強度をも高めることを明らかにされた先駆的研究。
- (2) オーステナイト耐熱鋼に微量の Ti と Nb を組み合わせ添加すると、高温強度を大きく向上させることを見出し、その強化機構を提示されて、火力発電および石油化学部材としての新たな耐熱鋼の開発指針を提示された研究。
- (3) 高温での固溶強化因子の評価を γ 単相としたオーステナイト系耐熱鋼について行い、積層欠陥エネルギー、拡散係数および弾性係数に比べ固溶元素の大きさ効果の寄与がより大きいことを明らかにされた基礎的研究。
- (4) γ 単相の高 Cr 高 Ni 鋼について求めた置換型元素による固溶強化量はストレイン・ディップテストで導いた内部応力の増加で説明できることを確認された研究。
- (5) 第 2 相の結晶粒界での被覆率を高めるとクリープ速度が減少する関係を高温ガス炉の熱交換器用候補合金の Ni-Cr-20W 合金で見出し、これを粒界析出強化と称し新たな強化機構として提示された研究。

これらの業績により、本会より渡辺義介記念賞(昭和 41 年)、西山記念賞(昭和 47 年)、ヘンダーソン賞(昭和 52 年)、俵論文賞(昭和 61 年)、西山賞(平成 4 年)を授与されました。また、耐熱鋼、耐熱合金分野の研究者の指導育成に貢献されたことに対して製鉄功労賞(平成 12 年)、俵賞(平成 22 年)を受賞されています。また、平成 7 年に本会名誉会員の称号を授与され、さらに、平成 3 年に藍綬褒章を、平成 15 年に瑞宝中綬章を受章されています。また、先生は本会の運営にご尽力され、理事、評議員を歴任され、研究委員長など要職を務められ野呂賞(昭和 60 年)を授与されています。

さらに、日本熱処理技術協会会長、日本金属学会副会長などを永年にわたり務められ、広く学会事業の発展に大きく貢献されました。

先生が耐熱材料の研究を通して、鉄鋼材料の技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績に感謝し、会員一同衷心から哀悼の意をささげ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成 28 年 3 月

日本鉄鋼協会 会長 加藤雅治